K19093-福本光重

本レポートでは、課題文である張り紙と、それを修正して書き直した紙面案の内容について触れていく。課題文には、いくつかの問題点があり、それらの問題点を紙面案と照らし合わせながら、どのようにして紙面案を作成したのか説明する。

　まず、課題文には、大きな問題点が3点存在する。１点目は、文章が全て連なっており、伝えたいことが伝わりづらいという点だ。この貼り紙自体、注意喚起の張り紙であるはずなのに、何度か読み返さないと、情報が読み取れない。結局、ロッカーを使ってほしいのか、盗難に注意してほしいのか、何を伝えたいのか非常に分かりづらい文となってしまっている。

２点目は、文が全体的に冗長で、読みづらくなってしまっている点だ。具体的には「など」「この講師室に」という、書かなくても、意味が伝わる言葉が多く使用されている点である。また、「講義に行かれる先生をお見かけいたしますが」という文は長いため、短い文に置き換えて省略すべきである。

本レポートでは、課題文に変わる貼り紙を作成した。（別紙参照）その内容を以下で詳しく説明する。

まず１点目の問題は、段落分けを行い、各パラグラフに１つの伝えたい情報を書くようにした。１つ目のパラグラフは、「カバンをロッカーに入れてもらう」こと、２つ目は、「カバンがロッカーにしまわれていない」こと、３つ目は、「盗難に注意してもらう」という構成にした。そして、最も伝えたい「カバンをロッカーに入れてもらう」というパラグラフを最初に持ってきた。これにより、初めて貼り紙を見た人でも、１回で作成者の意図を読み取れるようになった。

２点目の問題は、語句の削除と言い換えを行った。削除した言葉は主に「この講師室に」「など」、言い換えは「講義に行かれる先生を」を「放置されたカバンを」である。これにより、文の意味を大きく変えずに、読みやすくなった。しかし、３つ目のパラグラフの「この講師室に」は削除せずに残した。理由は、文法上削除することが難しかったことと、講師室が無人になるということをより主張したかったためである。

以上、本レポートでは、課題文に変わる貼り紙の紙面案を作成・提案した。紙面案では、最も伝えたいことを１回で伝わり、各パラグラフがシンプルで読みやすいよう意識した。しかし、文章の簡略化と読みやすさを追求したが、２つ目と3つ目のパラグラフはもう少し省略できると考えた。この点については今後の課題としたい。